

知財情報フェアにおける生成 AI と翻訳

2026 年と 2025 年の展示発表の比較調査と考察

調査基準日 2026 年 9 月 22 日

GPT-6 Astra

2026 年の特徴は、生成 AI による翻訳を、誤訳の検出・修正、専門家による検証、外国出願の運用まで組み込む提案が具体化したことである。その土台となる生成 AI 翻訳、翻訳資産の活用、AI エージェント、人と AI の協業は、2025 年にも既に展示・発表されていた。両年の比較からは、品質を管理する方法と、業務として提供する形の進展が読み取れる。

1 調査対象と資料の読み方

対象は、2026 年 9 月 16～18 日に開催された第 35 回知財・情報フェア&コンファレンスと、2025 年 9 月 10～12 日の同フェアである。特許明細書、公報、外国出願関連文書、契約書などの翻訳に係る展示・発表を中心に、主催者のプログラムと出展者詳細、企業の出展告知・開催報告、公開講演資料を照合した。[1, 2]

資料の性質に応じて、公式プログラムへの掲載、展示・実演の事前告知、開催後の実施報告、公開講演資料を区別する。告知に記載された機能が当日にすべて実演されたことや、講演概要の全項目が実際に説明されたことまで意味するものではない。企業が公表した性能値は、その対象と条件を保ったまま記載する。

「AI 翻訳」という表記だけでは生成 AI の採用を意味しない。生成 AI・大規模言語モデル（LLM）の使用が明記されたものと、機械翻訳一般の紹介を分けて扱う。翻訳メモリは過去の原文と訳文の対応を蓄積した資産、CAT は翻訳支援ツール、ポストエディットは機械翻訳の出力を人が確認・修正する作業を指す。

2 2026 年の発表と展示

翻訳を直接扱った主要な発表

公式プログラムから、翻訳との関係が明確な次の発表を確認した。表の題目は一部短縮している。講演番号は公式プログラム上の番号である。[3]

表 1 2026 年の主要な関連発表

日時と講演番号	発表者と主題	確認できた内容
9 月 16 日 11:25～12:10 P3-02	NGB／日本ビジネス翻訳（NBT） AI 時代の特許翻訳と外国出願の課題解決	翻訳資産・機械翻訳の活用に加え、LLM 翻訳モデルの社内開発と後編集への適用。翻訳会社の役割の変化。[3]
9 月 17 日 11:25～12:10 P5-08	AI 特許翻訳（AI PatentTrans.） 特許翻訳のパラダイムシフトと技術・法的検証	AI を前提として、翻訳者が技術面・法的観点の検証を担う方向性。企業側の登壇告知でも題目・日時を確認。[3, 4]
9 月 17 日 13:45～14:30 P4-10	TTDC／AI Samurai 国内外一体で進める価値最大化の権利戦略	AI 翻訳を、調査・権利化・現地代理人との連携を含む外国出願の仕組みに位置付ける提案。[3, 5]
9 月 18 日 16:05～16:50 P6-18	Questel 知財コスト監査と知財特化型自社 AI 翻訳	特許翻訳データ、自社 LLM、翻訳メモリ、専門翻訳者を組み合わせ、出願・翻訳・費用管理を関連付ける取組。[3]

NBT は翻訳工程、AI PatentTrans.は検証を担う人材、TTDC は権利化、Questel は費用管理まで対象としている。これらの題目と概要からは、翻訳を外国出願の中でどう管理するかが共通する論点になっていると考えられる。

展示で紹介された製品と機能

表 2 2026 年の主な関連展示

出展者と製品	公開資料で確認できた内容	比較上の注目点
川村インターナショナル XMAT／LDX Studio	生成 AI と機械翻訳を組み合わせ、ファイル変換、翻訳、自動検証・修正、用語集適用を一連の処理として提供。[6]	翻訳の前後工程と自動修正を含めた業務設計が具体的。
AIBS KORREPET	用語集作成、AI 翻訳、AI 誤訳チェック、応答案作成の操作デモを告知。翻訳とチェックに異なる AI モデルを使う例も提示。[7]	利用者が複数の作業を自ら実行する言語業務ツールとして提供。
ロゼッタ T-400	用語集・対訳データと生成 AI を組み合わせ、エージェント AI による超高精度（熟考）モードの実機展示を告知。[8]	翻訳後の確認負担の軽減を訴求。性能値の適用範囲には注意を要する。

出展者と製品	公開資料で確認できた内容	比較上の注目点
翻訳センター	専門翻訳者と生成 AI を組み合わせた特許明細書翻訳、外国出願支援を紹介。[9]	生成 AI を翻訳サービスの中心的な説明に据えている。
サン・フレア	生成 AI で作成した訳文のチェック、AI 導入支援、出願済み翻訳の品質の可視化、調査と翻訳の一括支援。[9]	既存訳文や既存工程の評価・改善も提示。
Japio Japio-GPG/FX	世界特許の日本語検索・AI 翻訳を紹介。別途、検索レポート・要約生成などの AI 機能を参考出展。[9]	翻訳機能と生成 AI による分析・要約機能は、技術的に同一とは確認できない。

サマリアは会期前日の 2026 年 9 月 15 日に「特許翻訳ツール」を公開した。明細書・図面中の文字の翻訳、段落単位での原文と訳文の確認、用語の確認、Word・Excel への出力などを紹介し、同じ記事でフェア出展と操作デモを告知している。当日の翻訳機能の実演範囲は別途確認を要するため、会期直前に公開された関連機能として位置付ける。[10]

展示告知の具体性が高い点として、KORREPET は Gemini で翻訳し ChatGPT でチェックする使い分けを示し、XMAT/LDX Studio はチェック後の自動修正と前後工程の連結を説明している。T-400 は熟考モードによる確認負担の低減を訴求している。生成後に何を行うかが、製品の説明に明確に現れている。[6, 7, 8]

ロゼッタが示す「修正必要率 0.05%」は、同社発表では契約書翻訳におけるセンテンス単位の数値である。特許明細書やクレームの誤訳率、あるいは人の確認を省略できる根拠として、そのまま読み替えることはできない。[8]

3 2025 年の発表と展示

生成 AI 翻訳と業務統合に関する発表

2025 年の公式公開プログラムには、生成 AI による特許翻訳、翻訳 AI エージェント、知財業務への翻訳の統合を扱う発表が既に掲載されている。次表はその主要例であり、題目・内容を短縮している。[11]

表 3 2025 年の主要な関連発表

開催枠	発表者	翻訳に関する主題
9 月 10 日 P22	IPACTORY	独自 LLM と専門家を組み合わせる特許翻訳「AIT」。
9 月 10 日 P27 9 月 11 日 P62	TTDC	AI 翻訳を活用した特許出願、翻訳エンジンの適応とポストエディット。
9 月 12 日 P85	Phrase	翻訳 AI エージェントによる品質・納期・コストの改善。

開催枠	発表者	翻訳に関する主題
9 月 12 日 P89	RWS	生成 AI を利用した特許翻訳の品質・効率向上。
9 月 12 日 P75	プロパティ	LLM を明細書作成、拒絶理由対応、翻訳などに活用。
9 月 12 日 P78	Questel	AI、知財管理システム、翻訳等の実務サービスの統合。

表 3 の出典は公式公開プログラムである。TTDC については、開催後の報告でも AI 翻訳に関するプレゼンテーションの実施を確認できる。[11, 12]

2025 年の展示内容

表 4 2025 年に確認できた機能と 2026 年との関係

出展者と製品	2025 年に確認できた内容	比較における意味
memoQ AGT	生成 AI が翻訳メモリ・用語ベースを利用し、分野や既存訳に適応する翻訳。原文・翻訳資産・訳文を二次利用しないとの説明。[13]	生成 AI と翻訳資産の組合せ、機密情報の取扱いは既に訴求点だった。
IPACTORY AIT/IPEDIT	特許分野の AI と専門家を組み合わせる翻訳サービス、明細書作成・翻訳を支援するソフトウェア。[14]	人と AI の協業、翻訳と明細書作成の接続は既に存在した。
川村インターナショナル XMAT 等	複数の翻訳エンジン、OpenAI を含む AI 活用、ファイル翻訳、編集、翻訳資産の利用を紹介。[15]	2026 年は自動検証・修正と工程連結の説明が具体化した。
RWS	AI 翻訳、Trados、外国出願プラットフォーム inovia などを紹介。[16]	翻訳と外国出願をまとめて支援する構想は 2025 年にも明確だった。
翻訳センター	翻訳メモリを利用する CAT と、独自 AI による下訳の活用。[17]	AI を組み込む工程は既に存在。2026 年は生成 AI の説明が前面に出た。
AIBS	AI 翻訳を経験ある翻訳者が修正するサービス、外国出願費用を含めた効率化。[18]	2026 年の KORREPET は、受託サービスに利用者が操作するツールを加える展開と読める。

出展者と製品	2025 年に確認できた内容	比較における意味
NGB／NBT	AI 翻訳とポストエディットの活用を提案。[19]	2026 年は LLM モデルの社内開発や後編集への適用まで説明が具体化した。
サン・フレア	開催後の報告で、人の翻訳と技術の組合せ、生成 AI への取組、工程最適化、品質の可視化を紹介。[20]	品質の可視化と専門家の関与は 2025 年から継続するテーマ。

クロスランゲージの 2025 年展示は、オンプレミスの翻訳システム、特許向け翻訳エンジン、API などを中心としていた。機械翻訳の実務利用として重要な事例であるが、出展告知だけから生成 AI 翻訳とは分類できない。[21]

翻訳センターの 2025 年出展者詳細では、GPT-4o は別途紹介された議事録ツールの説明に登場する。これを特許翻訳エンジンの仕様と取り違えないようにする必要がある。AI 翻訳の記載と、LLM を用いた特許翻訳の記載は区別して読まなければならない。[17]

4 コンファレンスの翻訳評価と公的サービス

2025 年の WIPO 講演「PATENTSCOPE ハイライト」には、WIPO Translate、Google Translate、DeepL、MADLAD-400、Claude 3.7 Sonnet を比較したグラフが含まれる。対象は直近公開の特許出願の書誌事項、指標は BLEU であり、WIPO はその条件で自社翻訳の優位性を示している。特許向け翻訳と汎用の生成 AI を同じ対象で比較する説明が、2025 年に既に行われていた。[22]

この比較は、モデルの新しさや生成 AI という名称だけで特許翻訳の適性を判断できないことを示唆する。一方、WIPO 自身による対象と指標を限定した評価であり、クレーム全体の意味保持や出願用翻訳の適格性を直接検証したものではない。

JPO の 2025 年講演は、日英翻訳、中韓公報の和訳などの機械翻訳施策を扱っているが、生成 AI への全面移行を示すものではない。両講演の実施日と資料公開は、Japio の開催報告でも確認できる。[23, 24]

2026 年にも JPO・WIPO の講演はプログラムに含まれている。ただし、両年の翻訳性能を直接比較できる公開講演資料に基づく評価とは区別する必要がある。以下の年次比較は、確認した展示・発表の内容と説明の変化を対象とする。[3]

5 両年の比較

次表は、確認した事例からの考察である。展示件数の統計的な増減や、各社製品の性能向上率を示すものではない。2025 年に既に存在した要素を基準として、2026 年の説明や提供形態で具体化した点を整理する。

表 5 2025 年と 2026 年の比較

比較軸	2025 年に既にあったこと	2026 年で具体化したこと
訳文生成	LLM 翻訳、専門分野への適応、複数エンジンの利用。	翻訳に続く検証・修正との連結。生成から品質管理まで扱う範囲が広がった。
翻訳資産	翻訳メモリ・用語集と生成 AI の組合せ。	用語適用を含む一連の工程への組み込み。資産を工程内でどう利用するかが競争点となる。
AI エージェント	Phrase などが既に提案。	翻訳とチェックの分担、自動修正など、利用者が理解できる動作の説明。
人の役割	AI の下訳を専門家が修正。	技術・法的観点での検証、既存訳文の品質評価を強調。
提供形態	受託翻訳、翻訳支援ツール、出願サービス。	利用者が操作する言語業務ツールや、知財ツールへの翻訳機能の追加。
経済性	翻訳費用・納期の改善、外国出願との連携。	コスト監査、現地代理人連携、権利化全体との接続。
品質の説明	専門分野への適応、専門家確認、翻訳評価。	修正必要率や自動チェックを強く訴求。数値と出願実務上の品質の対応が課題となる。

表 5 の根拠は、公式講演プログラム、2026 年の主要製品の出展告知、2025 年の各出展者詳細である。特に、翻訳資産・AI エージェント・人と AI の協業・外国出願との統合には、両年を通じた連続性がある。[3, 6, 7, 8, 11, 13, 14, 16]

6 変化の意味と実務への影響

訳文の生成に加えて確認作業の設計が製品価値になる

2025 年にも品質改善や人の確認は語られていた。2026 年の XMAT、KORREPET、T-400 では、チェックや修正をどのような機能で実行するかが説明されている。導入評価では、訳文が自然かに加え、どの誤りを検出し、どの誤りを見逃し、最終確認者の作業をどれだけ減らせるかが重要になる。[6, 7, 8]

異なるモデルで翻訳とチェックを行う構成は比較対象になり得るが、その構成だけで検証の独立性や完全性が保証されるわけではない。検出能力は、実際の誤りを含む評価用文書で確認する必要がある。これは展示機能の評価に当たっての実務的な判断である。

翻訳会社の知見が利用者の操作するソフトウェアにも広がる

AIBS は 2025 年に AI 翻訳と人の修正を組み合わせたサービスを紹介し、2026 年には用語作成、翻訳、誤訳チェックなどを利用者が操作する KORREPET を展示すると告知した。これは提供形態の変化を示す具体例である。[7, 18]

企業知財部や特許事務所は、自ら処理する範囲と、外部の専門家に依頼する範囲を選びやすくなると考えられる。ただし、受託翻訳がそのまま不要になるという証拠ではない。下訳を内製し、評価や難しい修正を外部に依頼する形も考えられる。

専門家の役割を技術内容と権利化の意図の検証として説明する

AI PatentTrans. の 2026 年発表は、AI と技術・法的検証の組合せを明示している。実務上の価値は、文章を整えることに加えて、発明の構成、条件、用語の対応、原文との意味の一致を確かめるところにあると考えられる。[3, 4]

2025 年の IPACTORY などにも人と AI の協業はあったため、これは継続する流れである。2026 年は、人が関与する理由と担当範囲を技術・法的検証として説明する動きが読み取れる。[14]

翻訳の経済性を外国出願全体で捉える

TTDC や Questel の 2026 年発表では、翻訳が権利化、現地代理人との連携、費用管理と関連付けられている。RWS や Questel は 2025 年にも統合サービスを紹介しており、方向性には連続性がある。[3, 5, 11, 16]

導入側は、翻訳の費用、社内の確認時間、専門家による修正、現地代理人との調整、手戻りを合算して判断する必要がある。安い下訳を短時間で得られても、その後の確認負担が大きければ案件全体の改善につながらない。訳文の生成速度が大きく変わらなくても、確認・修正・受渡しが円滑になれば効果が出る可能性がある。

品質主張の測定対象と評価条件を確認する

WIPO の BLEU、ロゼッタの修正必要率、各社が用いる高精度という表現は、測定対象と意味が異なる。今回の比較を支える資料は、同じ特許明細書、同じ言語対、同じ評価基準で 2025 年版と 2026 年版、あるいは各社製品を横断比較したものではない。[8, 22]

根拠をもって評価できる変化は、品質管理に関する機能と提案の具体化である。特許翻訳の品質が一律に大幅改善したことや、全面的に人の確認を省けるようになったことまで示すものではない。また、ある年の資料で製品名や機能が確認できないことを、その年に提供・展示されていなかった証拠とは扱わない。

7 導入評価で確認する事項

展示で紹介された製品を比較する際は、用途を分けて評価することが有効である。以下は展示資料の記載とは区別した、導入側に対する実務上の提案である。

表 6 翻訳用途別の評価項目

用途	重視する評価項目
外国特許の概要把握と一次調査	技術内容の把握、処理速度、原文に戻って確認できること。
明細書とクレームの出願用翻訳	意味の保持、用語の一貫性、条件・数値・参照関係、専門家による確認時間。
拒絶理由通知や応答案の翻訳	当該案件の文脈、過去文書との整合、翻訳と内容作成の区別。
契約書と周辺文書	文書固有の評価基準。そこで得た性能値を特許明細書へ流用しないこと。

同じ案件について、①重要な誤訳の件数、②チェック機能の見逃しと過剰指摘、③人が修正する時間、④用語・図面・ファイル形式を含む仕上がり、⑤最終成果物までの総費用を記録することが望ましい。これにより、2026 年の展示で具体化した自動チェック、自動修正、業務統合の価値を、自社の実務に即して確かめられる。

参考文献

本文中の番号は以下の文献に対応する。ウェブ資料の閲覧日はすべて 2026 年 9 月 22 日。企業の出展者詳細とプレスリリースは、各社が説明する機能・性能・展示予定の根拠として用いた。

- [1] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト. 2026 年開催情報.
<https://pifc.jp/2026/>
- [2] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト. 2025 年開催情報.
<https://pifc.jp/2025/>
- [3] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 2026 年 出展者プレゼンテーションおよびコンファレンスプログラム. 公式オンラインプログラム. 本文では講演番号を併記.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars?cat=exhibitor-presentation>
- [4] AI PatentTrans.. 9/16 開幕「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」参加のお知らせ. 2026 年 9 月 9 日. URL 中の日付表記とページ掲載日は異なる.
<https://iptrans.jp/ja/news/2026-3-25.html>
- [5] トヨタテクニカルディベロップメント株式会社. 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展します. 2026 年 8 月 28 日. PR TIMES 掲載の企業発表.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000046.000070679.html>
- [6] 株式会社川村インターナショナル. 川村インターナショナル、9 月 16 日～18 日開催「第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展. 2026 年 9 月 2 日. PR TIMES 掲載の企業発表.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000215.000031187.html>
- [7] 株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ. オールインワン AI 言語サービス「KORREPET (コレペット)」が 2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展. 2026 年 9 月 15 日. PR TIMES 掲載の企業発表. 事業戦略・知財戦略支援サービスの併設展示も告知.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000181401.html>
- [8] 株式会社ロゼッタ. 超高精度 AI 翻訳のロゼッタ「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展. 2026 年 9 月 9 日. 副題は特許・知財文書対応 T-400 と修正必要率 0.05%の実機展示.
<https://www.rozetta.jp/news/2171/>
- [9] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 2026 年 出展者一覧および出展者紹介. 翻訳センター、サン・フレア、Japio 等の公式出展情報. 個別説明は各出展者の提供情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>
- [10] 株式会社パテント・インテグレーション. 新機能「特許翻訳ツール」・ナビゲーション機能「サマリア AI」HP・メインメニューの刷新・「サマリア MCP」活用記事のご案内. 最終更新 2026 年 9 月 15 日. フェア出展告知を含む.
https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260915
- [11] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 出展者プレゼンテーション 知財・情報フェア&コンファレンス 2025. 公式公開プログラム PDF v5. P22、P27、P62、P75、P78、P85、P89 等.
https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf
- [12] トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 IP 事業本部. 「TTDC×AI Samurai が知財情報フェアに共同出展！」革新的知財ソリューションを一挙公開. 2025 年開催後の出展・講演実施報告. PDF、1 頁.
https://www.toyota-td.jp/news/files/ip/2025_069-001.pdf

- [13] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者／memoQ. 2025 年 出展者詳細 memoQ. 公式出展情報。小間 W3-40。共同出展者は株式会社シグナピア。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=117
- [14] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者／株式会社アイパクトリ. 2025 年 出展者詳細 IPACTORY. 公式出展情報。小間 W4-77。AIT および IPEDIT の紹介。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=2
- [15] 株式会社川村インターナショナル. 【特許出願等の翻訳業務をサポート】2025 知財・情報フェア&コンファレンス出展のお知らせ。2025 年 8 月 18 日。PR TIMES 掲載の企業発表。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000195.000031187.html>
- [16] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者／アール・ダブリュ・エス・グループ. 2025 年 出展者詳細 RWS. 公式出展情報。小間 W3-32。AI 翻訳、Trados、inovia 等の紹介。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=1
- [17] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者／株式会社翻訳センター. 2025 年 出展者詳細 翻訳センター. 公式出展情報。小間 W4-107。CAT・翻訳メモリ・独自 AI 下訳の活用。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=112
- [18] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者／株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ. 2025 年 出展者詳細 AIBS. 公式出展情報。小間 W3-26。AI 翻訳と専門翻訳者による修正。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=18
- [19] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者／NGB 株式会社・日本ビジネス翻訳株式会社. 2025 年 出展者詳細 NGB／NBT. 公式出展情報。小間 W4-113。AI 翻訳・ポストエディットの提案。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=33
- [20] 株式会社サン・フレア. 【2025 知財・情報フェア&コンファレンス】に出展いたしました！. 2025 年 9 月 18 日。開催後の出展報告。
<https://www.sunflare.com/news/2025/09/001715.html>
- [21] 株式会社クロスランゲージ. 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展いたします。2025 年 8 月 20 日。企業出展告知。
<https://www.crosslanguage.co.jp/news/pifc-2025/>
- [22] William Keyser／世界知的所有権機関（WIPO）. PATENTSCOPE ハイライト. 2025 年 9 月 11 日コンファレンス講演資料。Japio 掲載 PDF、17 頁。翻訳比較は PDF 第 6 頁。
<https://japio.or.jp/fair/files/2025/202503.pdf>
- [23] 安積高靖／特許庁 特許情報室. 特許庁の特許情報施策について。2025 年 9 月 11 日講演資料。Japio 掲載 PDF、34 頁。
<https://japio.or.jp/fair/files/2025/202502.pdf>
- [24] 一般財団法人日本特許情報機構（Japio）. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス開催報告。コンファレンス開催日、講演者、公開講演資料へのリンク。
https://japio.or.jp/fair/fair_25houkoku.html